

平成27年栃木県サービス管理責任者研修資格取得研修

# ケアマネジメント概論

平成27年7月13日（月）

## 講義の目的

ケアマネジメントのプロセスと技術について理解する。

社会福祉法人せせらぎ会  
県南圏域 障害者就業・生活支援センター「めーぷる」  
生活支援ワーカー 梁島 和由

# ケアマネジメントとは

- ①ケアマネジメントの枠組み
- ②ケアマネジメントで大切にしたい  
「7つのキーワード」
- ③ケアマネジメントのサイクルについて

ケアマネジメントの枠組み



# ケアマネジメントの枠組み① 「定義」

多様なニーズを持った人々が、自分の機能を最大限発揮して健康に過ごすことを目的としてフォーマル及びインフォーマルな支援と活動のネットワークを組織し、調整し、維持することを計画する人（チーム）の活動と定義される。



デイビットP. マクスリー

# ケアマネジメントの枠組み②

## 「2つの目的」

①	生活困難者に対して、様々な支援を組み合わせ提供すること。	セルフケア能力の向上
②	一つの事例を通して色々な領域の様々な職種や家族や近隣をつなげる こと。	地域のコミュニティづくり



# ケアマネジメントの枠組み③

## 「必要性」

施設内生活



地域生活



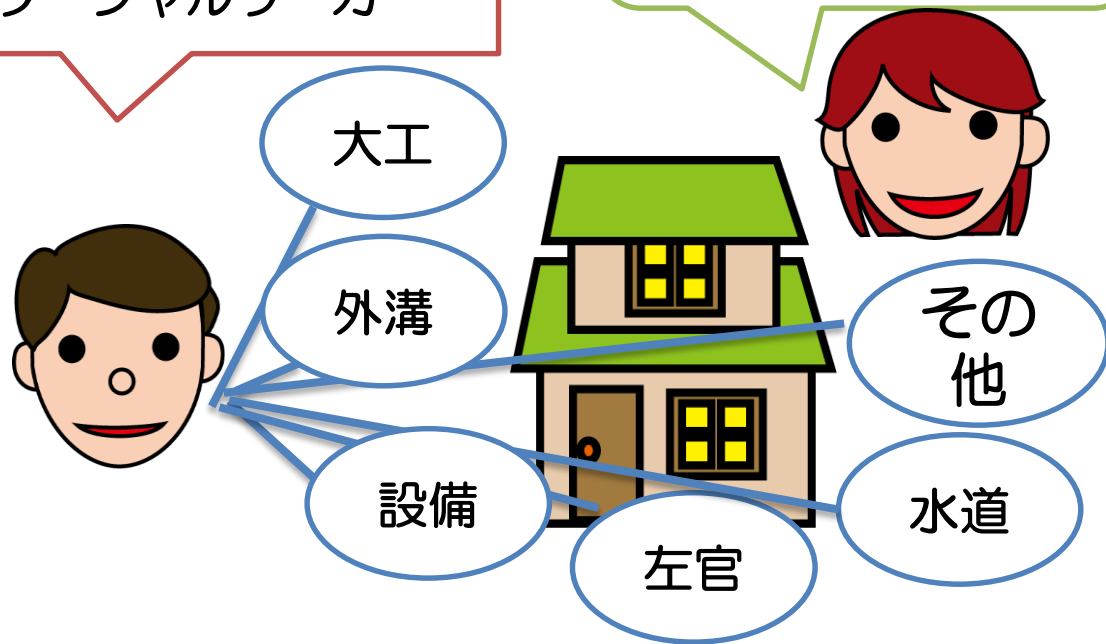
今まではケアマネジメントは必要なかった

- 地域に障害者が暮らしていない
- 施設中心だった
- 専門分化（学校、病院、家庭等）して完結的

# 【障害者が地域で生活するとき】

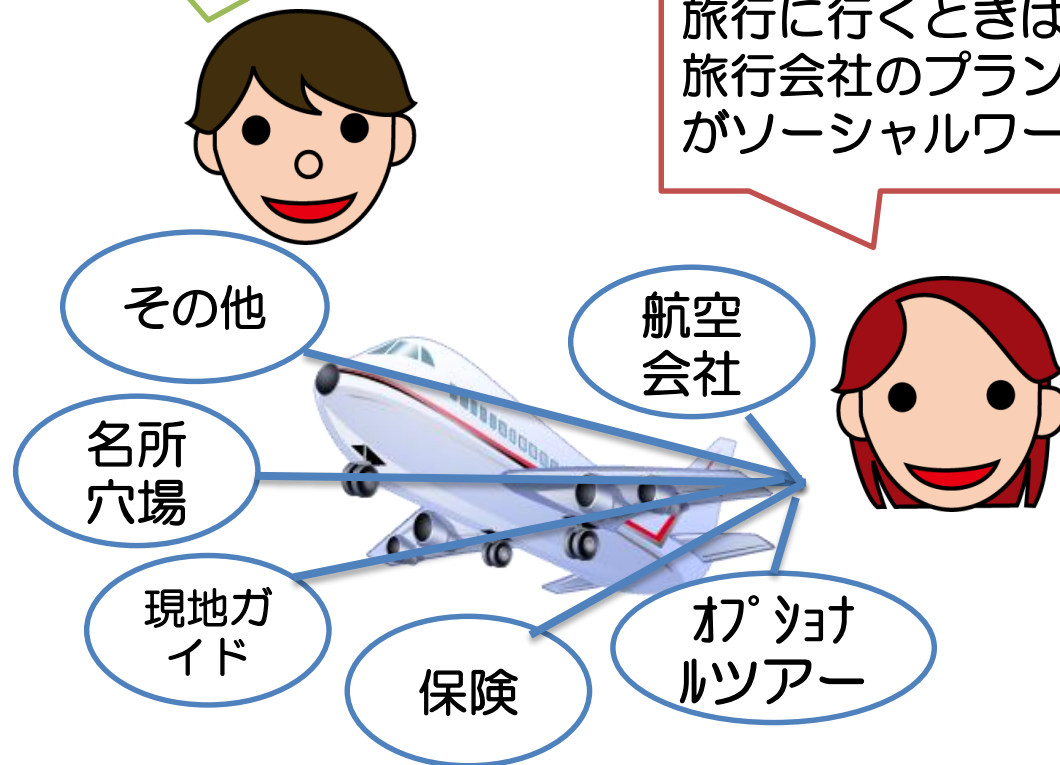
家を建てるときは、  
建築会社の営業マンが  
ソーシャルワーカー

主人公は、  
「いい家を作りたい。  
幸せな家庭を作りたい」  
というお客さん



主人公は、  
「楽しい旅行がしたい。  
新しい発見がしたい。」  
というお客さん

旅行に行くときは、  
旅行会社のプランナー  
がソーシャルワーカー



イメージとして・・・

# ケアマネジメントの枠組み④ 「対象」

	軽い	重い
急ぐ	X	X
急がない	X	○



「危機介入」



「ケアマネジメント  
の対象」

※ 「重い」 = 複数ニーズを持つ事例

全てケースがケアマネジメントの対象ではない



# ケアマネジメントの枠組み⑤ 「歴史」

- 1970年代のアメリカで出現。

※発端は1950年代以降の精神病院や入所施設の福祉関連費の増大

- 精神障害者のコミュニティケアを推進することが目的。

※そのため州立の精神病院を2分の1を閉鎖していった

- 当時の課題として、
  - ①生活基盤となる「福祉住宅」の整備
  - ②生活ニーズとサービスを繋げるシステムの整備



手法・アプローチとして**ケースマネジメント**が登場した！

※このアプローチが精神障害者だけでなく他の社会的弱者に波及し利用された。

# ケアマネジメントの枠組み⑤

## 「日本のケアマネジメントの開発経過」

- 1993・4年からケアマネジメントの検討を開始
- 1995年 「障害者にかかわる介護サービス等の提供の方法及び評価に関する検討会」  
ケアガイドライン検討会
- 1998年 障害者介護等支援施行事業の開始  
ケアマネージャー指導者養成研修開始→全国で開始
- 1999年 テキスト発行
- 2000年 障害者介護等支援事業検討会（三障害）  
介護保険制度創設、介護支援専門員（ケアマネージャー）によるケアマネジメント
- 2002年 厚生労働省より「ケアガイドライン」  
三障害指導者養成研修開始  
全国でも三障害合同研修へ  
障害者ケアマネジメント従事者と変更
- 2003年 市町村において「障害者ケアマネジメント事業」上級研修の開始
- 2004年 三障害統合の方向へ  
グランドデザインにおいてもケアマネジメントを計画  
上級研修検討会議においてケアマネジメント従事者と上級者の役割分担などを検討
- 2006年 障害者自立支援法において制度化

ケアマネジメントで大切にしたい  
「7つのキーワード」



# ケアマネジメントのキーワード①

## 『ストレングスモデル』

- ストレングスとは、「強み」と訳される。

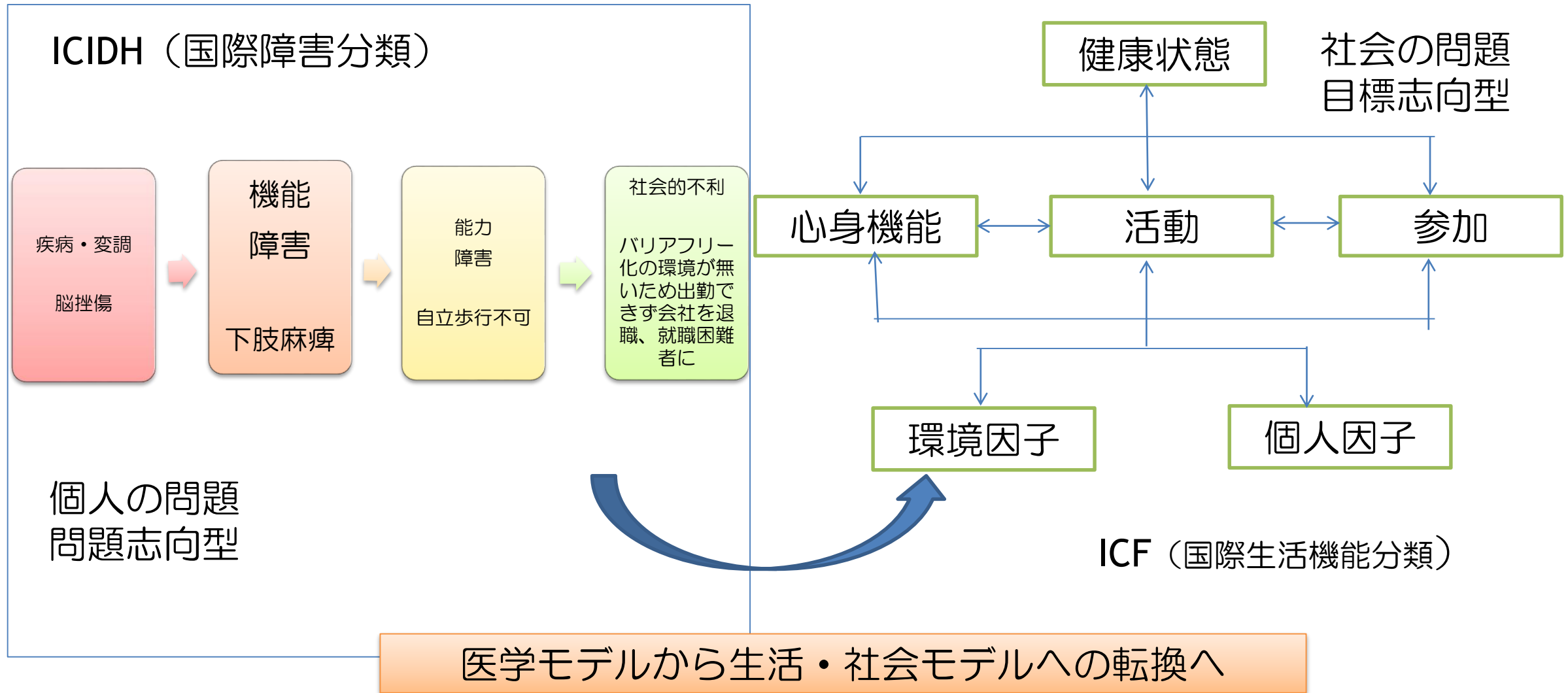
内的資源 (本人)	環境面 (社会資源)
<ul style="list-style-type: none"><li>• 能力</li><li>• 意欲</li><li>• 嗜好</li><li>• 資産</li><li>• 関心</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 家族</li><li>• 近隣</li><li>• ボランティア</li></ul>



人は必ず、ウィークネス（弱さ）とストレングス（強さ）の両面があること。この両面の視点/考え方が重要である。

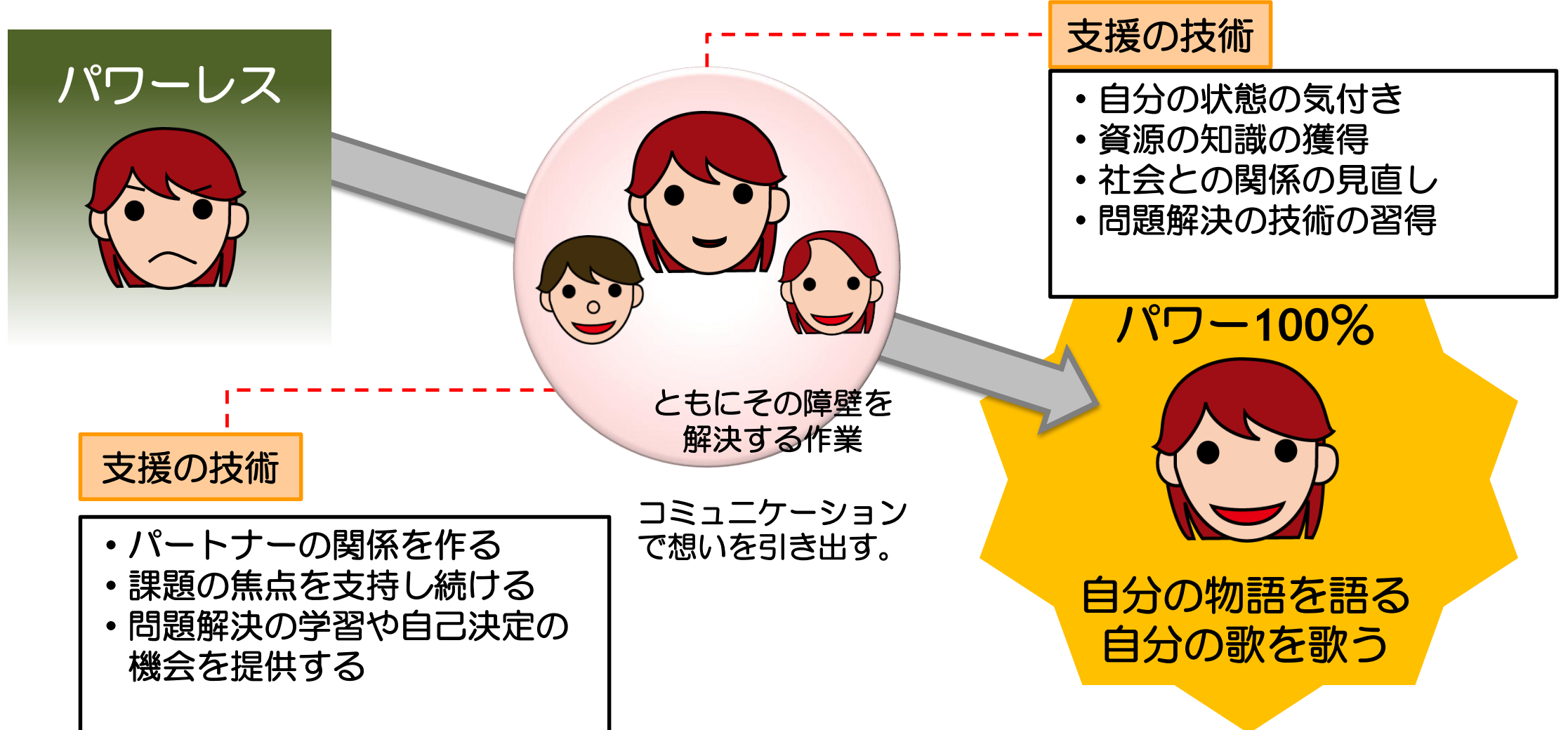
# ケアマネジメントのキーワード①

## 『ストレスングモデル』



# 『エンパワメント』

ケアマネジメントはエンパワメントの考え方が背景にある



# ケアマネジメントのキーワード②

## 『対等な関係性』

- ケアマネジメントを行う人と受ける人との間の対等な信頼関係が必要である。

→利用者は、決して劣った立場でなく社会に対して積極的に参加する権利を有する。

→利用者とケアマネジメント従事者は対等の立場から当事者の支援やサービスについて話し合える必要がある



# ケアマネジメントのキーワード③

## 『オープンシステムによる発想』

ケアマネジメントをオープンシステムで考える。

- 個人・法人の枠を超え、資源はその地域社会の中で活用する。
- ケアマネジメント従事者が自身が所属に縛られなく資源を活用する。





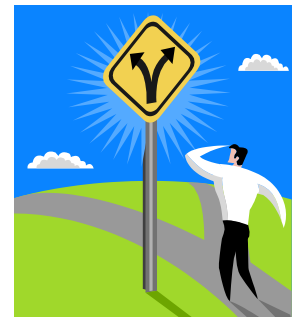
# ケアマネジメントのキーワード④

## 『当事者性・自己決定の支援』

- 支援は、利用者個人のニーズは利用者自身がかもっともよく知っているという考えに基づき行われる。

→自己決定を促すために、本人の能力にあった判断材料や説明に工夫する必要がある。

→意思決定をしたくなるような豊かな暮らし・安心して生活できる環境をコーディネート



# ケアマネジメントのキーワード⑤

## 『アドボカシー』

- 当事者の人権に配慮し、その権利を擁護する視点を尊重する。
  - 本来の意味は、「葛藤を最低減に抑えて問題解決を図ること」
  - 利用者のニーズを満たすはずの社会資源が機能を発揮しない場合にその利用者のために機能するように働きかけること。



# ケアマネジメントのキーワード⑥⑦

## 『共生社会』 『社会的な交流への配慮』

⑥利用者が可能な限り地域社会の中で家族や市民とともに生活出来るような共生社会を目指す。また、上記を満たすためにサービスの選択肢を増やすような地域づくりや啓蒙活動の視点も重要。

⑦利用者と必要なサービスを結びつけるだけでなく、本人や家族が孤独しないように社会的な交流にむけて開かせるように配慮する。

